

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
西海市	旧大瀬戸町地区(多以良小集落)	令和4年3月25日	令和5年1月13日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	190 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	54 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	28 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	17 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	2 ha
④地区内において今後中心経営体を引き受ける意向のある耕作面積の合計	4 ha
(備考)	

2 対象地区の課題

多以良小集落は、先進的に環境保全型農業の取り組みが積極的に行われてきた地域であり、水稻や果樹、施設野菜、畜産などの産地である。ヘリやドローンを使用した防除にも積極的に取り組んできているが、担い手の高齢化によって荒廃化が課題となっている。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

集団で取り組む集落営農に近いヘリ防除などの取り組みを活かした、個人や農家だけの農業でなく地域で一緒に取り組む農業を広げ、組織として運営することを確立するなど最新技術や支援策(多面的、中山間、環直)を活用し、課題の解消につなげていく。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

○農地中間管理機構の活用方針

将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を機構に貸し付けていく。

中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。

○鳥獣被害防止対策の取組方針

地域による鳥獣害対策の集落点検マップ(侵入防止柵や檻の設置状況、放置果樹や目撃・被害発生場所等)づくりや捕獲体制の構築等に取り組む。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
計	17 人		20.89 ha		25.04 ha	